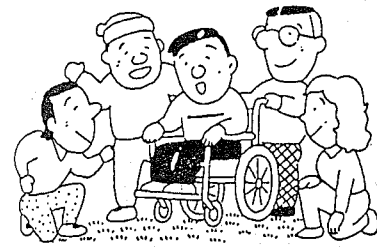


ともに生きる

12月９日は「障害者の日」です

人間一人ひとりが違うように、障害をもつ人もそれぞれ違います。障害をもつ人一人ひとりが別の人格を持つ人間なのです。また、ひとくちに障害をもつ人といっても、障害の種類や程度はさまざまです。

このような障害をもつ人は、日常生活においてもさまざまなハンディキャップを負っていますが、それを乗り越え自立しようと努力しています。障害をもつ人みずからの自立への努力とともに、社会が障害をもつ人たちを支えることは、とても大切なことです。

十二月九日は「障害者の日」、そして九日から十五日までは「身体障害者福祉週間」です。これを機会に、障害のある人もない人も、ともに交流し、お互いの理解を深めあうとともに、助け合い、尊重し合える社会を築いていきたいものです。

障害者の日をご存じですか

12月９日は「障害者の日」。10年前の1975年のこの日、国際連合で「障害者の権利宣言」が採択されました。「障害者の日」は、障害者問題についての理解と認識を深め、障害者の福祉の増進を図ろうとするものです。

この日を機会に、わたしたち１人ひとりが障害者問題を改めて考え直し、みんなが参加し、みんなが平等に暮らせるよりよい社会をつくっていきましょう。

社会参加を妨げる誤解や偏見

障害をもつ人を特別視するような風潮が、いまだにわたしたちの間に残っていないでしょうか。特に、ふだん障害者とあまり接したことのない人の中に、障害者は一般の人たちとは全く違っているというような誤解や偏見をもっている方はいないでしょうか。

こういう間違った考えをもっている人に限って、障害者に対して必要以上に同情や哀れみの態度を見せたり、また、逆に強く拒絶したりしがちです。障害者に対するこうした態度は、障害者の心をいたく傷つけ、また、その人たちの社会参加をますます妨げることになります。

障害をもつ人は、特別な人たちではありません。例えば、背の高い人とそうでない人、若者とお年寄りがいるように、目の見えない人も手足の不自由な人も、それは一人ひとりの個人差なのです。

ですから、わたしたちが同じ人間である以上、障害のあるなしにかかわらず、お互いが助け合い、尊重し合える社会を築いていかなければなりません。

もっと心の触れ合いを

障害をもつ人が差別や不公平な扱いを受けることなく、自然に社会に溶け込めるようにするために、わたしたちはいったい何をすべきでしょうか。

♡自然な態度で交流を

一つは、障害をもつ人だけが特別な不利益を被ることのないように、道路や建物などを改良するといった社会環境の整備があげられます。

しかし、もっと重要で基本的なことがあります。それは、相手が障害者であることを意識せずに、進んで障害者との交流を深め、人間的な触れ合いを大切にしていくということです。例えば、棚の上のお盆を取るときは背の高い人が進んで取り、重い荷物を持つときは若い人が買って出る――こういったごく自然な気の使い方や助け合いの精神を、障害者と接するときにも生かしてほしいのです。

つまり、街角で障害をもつ人が困っているのを見かけたら、〝相手が障害者だからお手伝いする〟のではなく、〝困っている人がいたからお手伝いする〟という考え方に立つことが大切です。

♡障害者の問題はわたしたちの問題です

わたしたちは、いつ何どき病気や事故などによって障害をもたないとも限りません。また、年をとれば体の機能が衰え、どこかしら障害が生じてくるものです。ですから、障害者の問題を他人事のように思わないで、あらゆる人が、あらゆる意味で平等に、そして明るく楽しく生きていけるように、みんなで力をあわせて解決していきましょう。

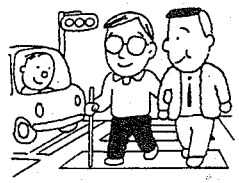
お買物、ご用命は市内で

贈答品・美術品
中野せともの店
本町４丁目　☎22－1086

昭和61年新春　１月８日(水)日帰り
臨時列車で　弥彦神社初詣での旅募集
人員 320名さま　費用 6,730円
新しい年の無事息災を祈願いたしましょう
馬下(8.10頃)－五泉－新関－東新津－新津(8.30頃)－新潟－弥彦(10.10頃)(参拝、ご祈とう直会)
弥彦(14.30頃)－新潟－新津(15.50頃)－東新津－新関－五泉－馬下(16.10頃)
お申し込みは　新津駅旅行センター　TEL 22－5470
日鉄旅行社　TEL 22－0951

障害をもつ人との交流

ひと声かけてから手助けを…



障害をもつ人が、何をどのように手伝ってほしいと思うかは、障害の程度やその場の状況によって違います。ですから、障害をもつ人が介助を必要としていたとしても、いきなり体に触れたり、車イスを押すのは失礼です。また、相手を驚かせてしまわないともかぎりません。お手伝いをするときは、「お手伝いをしましょうか」と、必ず声をかけてください。

目の不自由な人へのエチケット

街角で白い杖を持った人が立ち止まって困っている。これは、方角が分からなくなってしまった場合に多い姿です。こういうときには、まず声をかけてあげてください。方角や場所を教えてあげるときには、左右、前後、何メートル先の所といったように、正確に伝えましょう。

♡案内する方法

目の不自由な人を案内するときは、白い杖を持った手の反対側に立って腕や肩を貸します。そして、相手の半歩前を歩くようにします。手をつかんで引いたり、押したりすることは控えましょう。また、階段は上りか下りかを前もって説明することが大切です。

耳の不自由な人へのエチケット

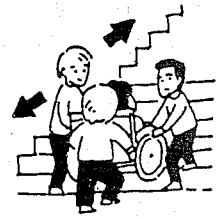
耳の不自由な人との会話方法には、手話や指文字を使う方法のほかに、相手の唇の動きを読み取る口話法や筆記法などがあります。口話法で、意思を正確に伝えるためには、あなたの口元がよく見える位置で、ジェスチャーを交じえながら、いつもよりも口を大きく開けてゆっくり話しましょう。

また、声を出さずに唇だけ動かしたり、大声を出して話すと、唇の動きは不自然になって相手には分かりにくくなってしまいます。

口話法で意思が伝わらない場合は、手のひらや紙に文字を書いて読み合えば確実です。

手足の不自由な人へのエチケット

車イスを使用する人にとって、階段や路上の段差は大きな障害です。特に階段の上り下りなど、一人で手伝うのが無理な場合は、通りがかりの人に協力を求めます。階段を上るときは、まずブレーキをかけ、左右から車イスを抱えます。このとき、車イスの人に両側の人の肩を抱いてもらうとより安定します。また、車イスの人が常に階段の上を向く状態で抱えるようにしてください。

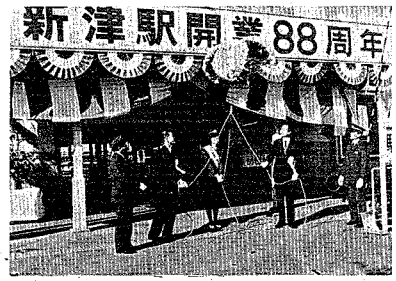


「山の家」と「ほがらか作業所」交歓会で交流を深め合う

さる11月17日、「山の家」と新潟市の「ほがらか作業所」の皆さんが、勤労青少年ホームで交歓のつどいを開きました。この交歓会は、青少年ボランティアバンクがお手伝いする形で実現したもので、初めての催しです。

全員で合唱したり、竹トンボづくりなどを行った後は、交歓会の目玉であるカレーライス作りに挑戦。五班に分かれて調理に取り組んだ結果、おいしいカレーライスができあがり、みんな満足そうでした。

また午後からは、バレーボールや縄とび、レクリェーションゲームなどで、いい汗をかきながら交流を深め合いました。



新津駅の〝米寿〟を祝い記念式典

11月20日、新津駅が開業88周年を迎え、〝米寿〟を祝う記念式典が駅前広場で行われました。新潟鉄道管理局長をはじめ、歴代駅長や国鉄ＯＢなど約150人が参加。くす玉カットなどで米寿を祝うとともに、今後も新津駅がますます発展するよう祈っていました。

お買物、ご用命は市内で

ポンと押せば お湯が出る
すぐ点く すぐ出る すぐ消せる
指先タッチ(押す)のガス湯沸器
これで安心！
老人から 子供まで 安心して 使えます
台所や洗面所に便利です
越後ガスサービス☎(24)2150・ショールーム☎(22)9651